

緑化だより No.217

令和 1年1月号



ツユクサ

- 季節の花(あをきり(アオギリ))
- 水生昆虫の話 (サカマキガイ)
- 小さな世界こけ(胞子体の違いIV)
- 研修会のご案内
- お知らせ・ご案内
- 展示会

広島県緑化センター

広島県緑化センター



〒732-0036 広島市東区福田町 10166-2

TEL 082-899-2811 FAX 082-899-2843 URL <https://ryokka-c.jp>



広島県
緑化センター
二次元コード

季節の花

あをきり(アオギリ)

「言(こと)問(と)はぬ木にはありとも

うるはしき君が手馴(たな)れの 琴にしあるべし」

作者 大伴旅人 万葉集 巻5-811

これを訳しますと

(私はもの言わぬ木ですが あなたの立派な方に

大事に弾いてもらえる琴になりたいと願っています。)

天平元年(729年)10月7日に、風流人の大伴旅人は、手紙と共に和琴を藤原房前に贈りました。
琴は古くから神事に使われる祭器で、魂がこもり神を呼び寄せる力を持っているとされます。

日本の琴は桐で作られますが、古くはアオギリでも作られていたようです。
アオギリは中国原産で、アオイ科アオギリ属の落葉高木で、奈良時代に日本に渡来して伊豆半島、紀伊半島、四国、九州で野生化しています。
別名はケナシアオギリとも呼ばれています。

キリ科のキリ(桐)は大きな葉が付き、樹皮が白いので「白桐」と呼ぶのに対して、幹肌が青緑色で、大きな葉がつく様子がキリに似ることから「青桐」と言われます。

アオギリの開花は5～7月で、枝先に淡い黄色の小花を多数咲かせます。花には花弁がなく花弁のような萼片が5つあります。

種子は10月頃に成熟し、戦時中にはこれを煎って コーヒーの代用としました。

広島8月6日の原爆投下の日、原爆中心地から1.3kmのところにあったアオギリは、熱風を浴びて枯れたと思われていたが、次の年の春には芽が出て、多くの人々に生きる勇気を与えました。

被爆アオギリは今も平和資料館の北側で、もの言わぬ生き証人として生き続けています。平和を愛する人の輪を広げるために、アオギリ2世の苗は全世界に配られ、公園や街路樹として植えられています。(上村)



アオギリ



アオギリの花



アオギリの実

水生昆虫の話

サカマキガイ

梅雨が明けると、いよいよ本格的な夏がやってきます。暑くなってくると川遊びがとても気持ち良くて森林浴をしながら川に足を付け、目を閉じてそっと耳を澄ますと、地球と大自然を体全体で感じることができるような気がします。

家の軒先で、金魚鉢の金魚やメダカ鉢のメダカが、水草の周りをスイスイ泳ぎ回る姿に癒される季節。金魚やメダカを飼育していらっしゃる方も多いのでは？

飼育している鉢の中で、あれれ？入れた覚えもないのにいつの間にか増えている巻貝をご存じでしょうか。そんな巻貝の多くは「サカマキガイ」という有肺目サカマキガイ科に分類される淡水産の巻貝です。

「サカマキガイ」の名前の由来は、殻の巻く方向が多くの他の巻貝とは逆の左巻きだからだそうです。よく似た淡水の貝に「モノアラガイ」がありますが、こちらは右巻きなので、殻の巻く方向を確認することで簡単に区別がつけます。

ちなみに、私は「左サカマキ、右モノアラ」と覚えています。

このサカマキガイ、実は外来種なんです。

原産地はヨーロッパまたは北米とされており、輸入された水草などについて、今や世界の各地に分布を拡大しているようで、日本には明治時代から戦前に侵入したと考えられています。

大きさは1 cm程度。殻は淡黄褐色ないし黒褐色の半透明で薄く、水玉のような模様が見えてツヤツヤしています。川岸の淀みや池沼に生える水草、用水路の壁面や田んぼなど様々な場所に生息しています。

食性は幅広く、小さな藻類や動物の死体、デトリタス、微生物などもよく食べます。飼育下ではせっかくな水草まで食べてしまうことも。更に水質汚濁にも強く、雌雄同体なので単独でも繁殖することができるため繁殖力はかなり強め。あっという間に増殖するので、飼育下では厄介者扱いされています。半透明でゼラチン質の卵囊塊を付着させ、やがて小さな稚貝達が孵化します。

そんなダークなイメージのサカマキガイですが、水槽の壁面や水面で逆さまになって浮いている時に、小さな丸い口をパクパクと動かしている姿と小さな黒い目は、私個人的には萌えポイントだったりします。(西村)



サカマキガイ

小さな世界 こけ

孢子体の違い IV

ツノゴケの孢子体

これまで3回にわたってセン類、タイ類の孢子体を見ましたが、今回はツノゴケ類について見てみましょう。

ツノゴケの葉状体は、ゼニゴケ類やミズゼニゴケ、マキノゴケなどに似ていますが、ツノ状の孢子体が特徴的です。何よりも大きな特徴は、孢子体に葉緑体をもち光合成をすることです。

セン類もタイ類も孢子体には葉緑体がなく、光合成はできません。

ツノゴケ類の孢子体が光合成をすることは、コケ植物とシダ植物をつなぐ輪と考えられ、進化の過程からたいへん重要です。

そのほかセン類、タイ類との違いは、① 蒴はツノ状で縦に割れる ② 孢子体の先端から徐々に孢子の成熟が進み、成熟した孢子から散布する ③ ラン藻が共生している などです。

日本では17種類が記録されていますが、緑化センターではニワツノゴケ、アナナシツノゴケを見ることができます。

ニワツノゴケは、雌雄同株で湿った庭や畑などでも見られることがあり、蒴に気孔があります。

アナナシツノゴケは、雌雄異株。溪流の岩上に生育し、蒴に気孔はありません。

6~7月、どちらも孢子体が観察できますので探してみたいかと思います。(山根)



ツノゴケの孢子体
孢子が成熟すると、先が割れ散布する



ニワツノゴケ
孢子体の長さは3~4 cm



アナナシツノゴケ
孢子体の長さは約2 cm

研修会のご案内

- | | |
|---|--|
| ○ 7月4日(金) 『7月の植物観察会』
散策路を歩きながら植物を観察します
※ 自由参加、無料 | 10:00～12:00 学習展示館前 集合
講師：森林研究家
埤田 宏 |
| ○ 7月6日(日) 『夏のきのこ教室』
園内でキノコを採集し、午後、持ち寄ったキノコを鑑定します
※ 自由参加、無料、採集用かご持参 | 10:00～14:00 第3駐車場 集合
講師：きのこアドバイザー
川上 嘉章 |
| ○ 7月20日(日) 『夏休み昆虫教室』
昆虫の生態や採集方法を学び、屋外で採集します
※ 要予約(抽選30名)、無料、採集用具持参 | 10:00～12:00 学習室 集合
講師：技術士(環境部門)
亀山 剛 |
| ○ 7月20日(日) 『夏休み自由工作塾』
※ 自由参加(随時受付)、材料費1作品100円 | 10:00～15:00 レストハウス裏庭
講師：緑化センターボランティア
ふれあい湧 |
| ○ 7月21日(月・祝) 『藍のトントン染め』
藍の葉をトントンたたき、ハンカチを染めよう
※ 要予約(抽選10作品)、材料費500円 | 10:00～12:00 学習室 集合
講師：サイエンス インストラクター
山縣 圭子 |
| ○ 7月27日(日) 『昆虫標本作り入門』
昆虫について学び、標本を作ります
※ 要予約(抽選12作品)、材料費1,200円 | 10:00～12:00 学習室 集合
講師：技術士(森林部門)
相良 伊知郎 |
| ○ 7月27日(日) 『夏休み自由工作塾』
※ 自由参加(随時受付)、材料費1作品100円 | 10:00～15:00 レストハウス裏庭
講師：緑化センターボランティア
ふれあい湧 |
| ○ 8月3日(日) 『水生昆虫を探そう』
溪流の水生昆虫を採集して、観察します。
5歳以上小学生以下 対象(小学3年生以下の
児童が複数参加の場合、保護者は2名以上つくこと
※ 要予約(抽選20名)、無料、雨天中止 | 10:00～12:00 第2駐車場 集合
講師：環境カウンセラー
西村 浩美 |
| ○ 8月3日(日) 『夏休み自由工作塾』
※ 自由参加(随時受付)、材料費1作品100円 | 10:00～15:00 レストハウス裏庭
講師：緑化センターボランティア
ふれあい湧 |

♪ ☆ お知らせ・ご案内 ☆ ♪

土・日・祝日は午後5時まで開園

第9回ひろしま遊学の森

四季の移ろい写真コンテスト

写真募集中 締切り;11月30日(土)

詳細はHP,チラシでご確認ください。

◎ 展示会

場所: レストハウス (ボード展示)

・広島県愛鳥週間ポスター

入賞作品展 7月23日(水)～8月20日(水)



令和6年度広島県愛鳥週間
入賞作品展より